

イチゴの病害虫の発生状況（10月上旬）

1 うどんこ病

巡回調査では、発生が確認されませんでした（図1）。まん延すると防除が困難になるので、発生初期から防除を実施してください。

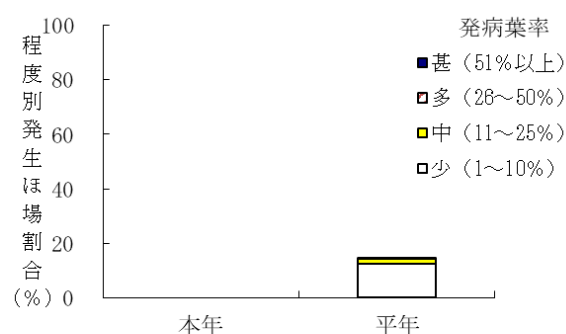


図1 うどんこ病の発生状況

2 土壌病害（炭疽病・萎黄病）

発生ほ場割合は、平年並でした（図2）。発病株及び発病が疑われる株は、速やかに抜き取り、ほ場外に持ち出し適切に処分してください。

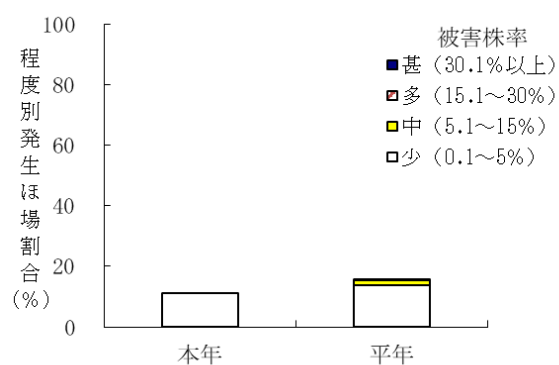


図2 土壌病害の発生状況

3 アブラムシ類

発生ほ場割合は、平年並でした（図3）。寄生密度が高くなると、すす病の原因となり、果実汚れが生じるため、低密度時から薬剤防除を実施してください。

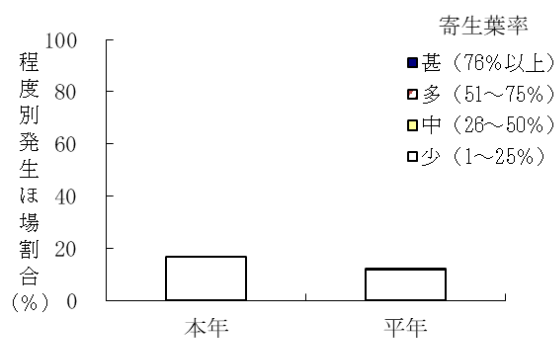


図3 アブラムシ類の発生状況

4 ハダニ類

発生ほ場割合は、平年よりやや低い状況でした（図4）。早期発見に努め、低密度時から防除を実施してください。抵抗性の発達が懸念されるので、薬剤の選択には注意してください。また、ハダニ類の防除にチリカブリダニやミヤコカブリダニを放飼している場合には、天敵資材に影響の小さい薬剤を選択してください。

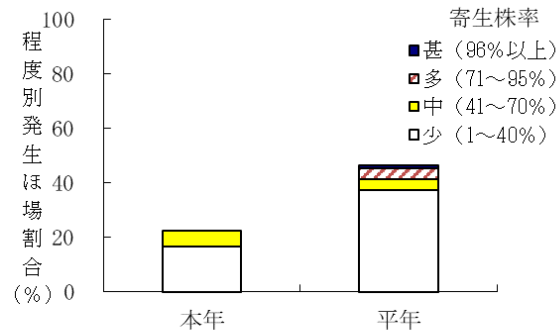


図4 ハダニ類の発生状況

5 コナジラミ類

発生ほ場割合は、平年並でした（図5）。寄生密度が高くなると、すす病の原因となり、果実汚れが生じるため、低密度時から防除を実施してください。

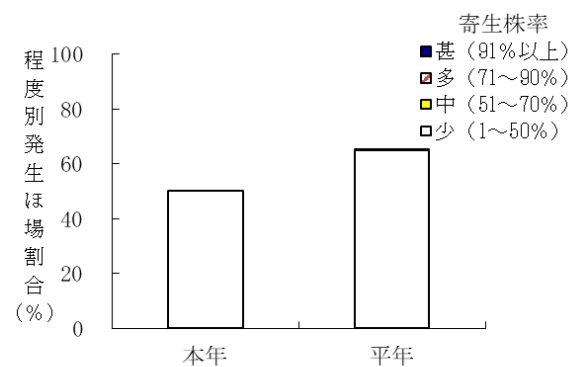


図5 コナジラミ類の発生状況

6 ハスモンヨトウ

発生ほ場割合は、平年並でした（図6）。フェロモントラップ調査では、相馬市で平年を上回る誘殺数が確認されています（図7）。成虫の飛来、産卵は11月上旬頃まで続くのでは場をよく観察し、寄生が確認された場合は速やかに防除を実施してください。

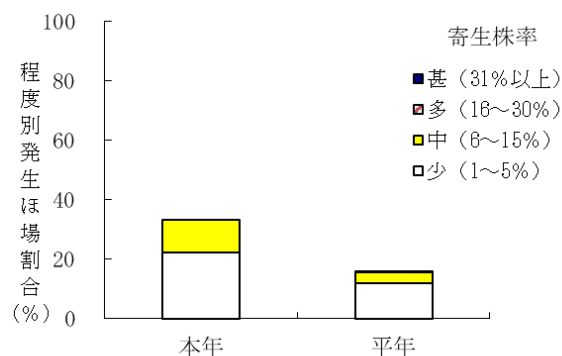


図6 ハスモンヨトウの発生状況

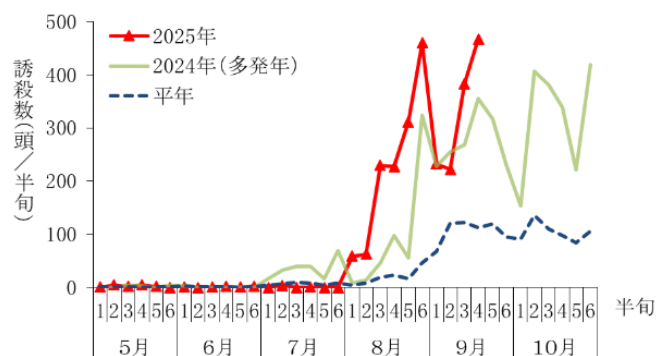


図7 フェロモントラップによるハスモンヨトウ誘殺状況
(相馬市南飯淵:イチゴ)
※平年のうち2012～2019年は相馬市和田

※イチゴの巡回調査は、下記の 20 ほ場を調査しています。

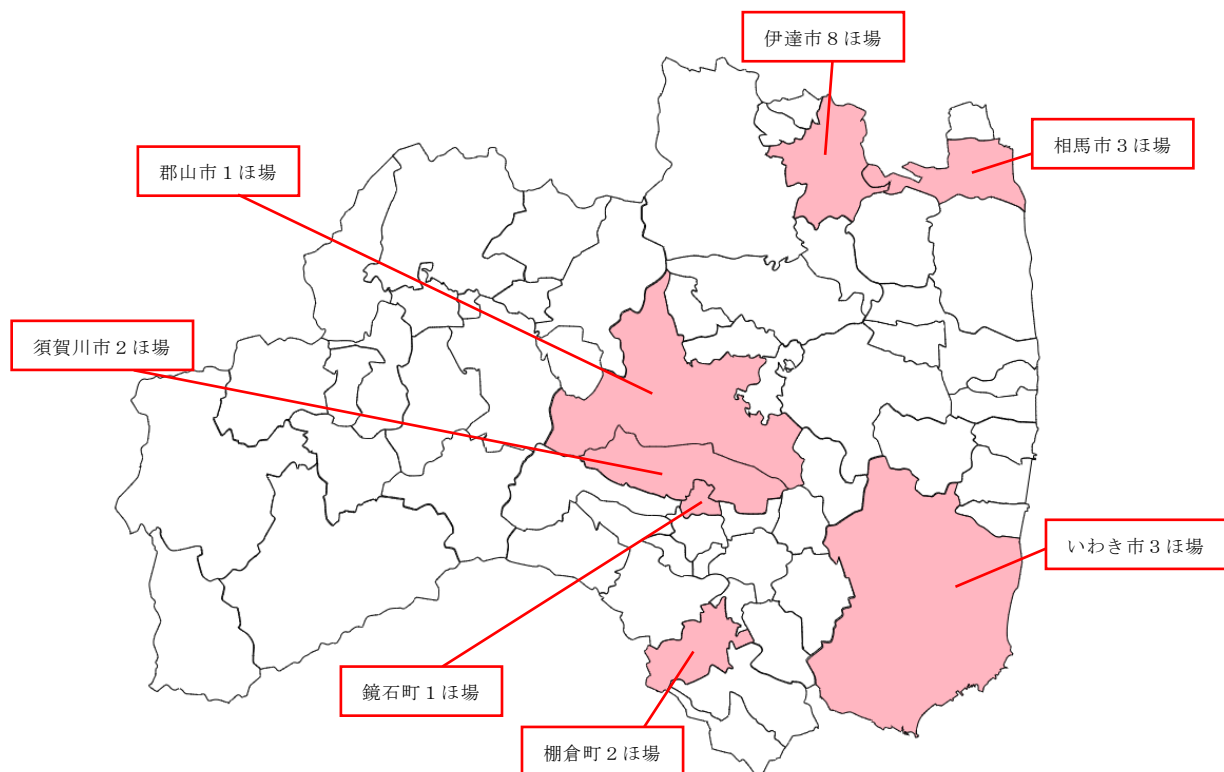


図 イチゴの巡回調査地点

※網掛け:イチゴの巡回調査地点、7 市町村、20 地点

● 情報内容への質問や要望は、福島県病虫害防除所まで御連絡ください。

Tel:024-958-1709 Fax:024-958-1727 Mail:yosatsu@pref.fukushima.lg.jp